

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200367		
法人名	有限会社 銀友		
事業所名	グループホーム銀友		
所在地	茨城県日立市小木津町1-28-25		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な支援をしています。利用者様の要介護度の大きな変化なく、入居日数が皆様長い事が、いかに普段の何気ない心掛けが大切と思っております。ここ数年コロナウイルスの影響で、多くの交流や計画がなくなり寂しい限りです。健康管理・認知症予防・清潔保持等々、9名ワンユニットだから出来る一人ひとりの思いをできるだけ職員全員で共通理解をしながら支援しています。地域ボランティアによるシニア体操や銀友独自のサービス「フレンド喫茶」も定着継続しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870200367-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和 4年 12 月 16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に位置し開設から21年を経過した日立市で最初のグループホームであり、毎回地域住民が避難訓練に参加したり季節の野菜のおすそ分けを頻繁に貰う等地域に根づいている。開設当時の代表者の強い思いを理念に掲げ一人ひとりの利用者目線でケアを行っている。長期勤務の職員が多くコミュニケーションが良くとれており利用者に質の良いケアを提供できている。隅々まで掃除が行き届き民芸風の和モダンな家具を配置し、居心地よく過ごせる環境を提供できている。毎日の食事に力を入れ品数を多く調理を工夫し器にもこだわって職員と利用者が同じ食事で日々の楽しみになっている。1回/月ホームルームを設け利用者の希望を聞くことで望みを叶えることが出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と共に、職員も共有、家庭的な支援をもとに日々の実践につなげている。	家の延長で今までの通りの生活できるように利用者職員は家族としながらも、利用者個々を見て支援している。「一人ひとりの尊厳を大切に」職員が共有して日々のケアをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染症予防のために、直接交流会等はお互いに気を使っている。しかし、地域ボランティアによる「シニア体操」は継続している。	現在は中止しているが、コロナ禍前は保育園の園児が来園し交流したり、ボランティアを受け入れていた。近隣住民からは頻りに野菜が届くなど交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設開設当時より継続している「シニア体操」の実践が認知症高齢者にとり大きな励みと共に体力維持継続のために大きな力となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ感染症予防のために、会議は資料にて確認、後日電話や書面にてご意見を伺っている。	管理者は電話で委員に意見を求め、運営推進会議議事録として記載しているが配布は市役所のみである。	運営推進会議の議事録に配布先の記載を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話にて済ませる事、直接相談したいことを見極めながら協力関係を築いている。	市の職員、包括支援センター職員とは日頃から連携を図り協力関係が築かれている。市担当者から入居依頼の連絡があったり、管理者は分からない事や困りごととは相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表及びすべての職員が「身体拘束における禁止の対象となる具体的な行為」を理解している。玄関の施錠を含めて身体拘束なしに取り組んでいる。	身体的拘束排除のための委員会を設置している。職員は気持ちにゆとりをもってケアするよう努めており、現在身体的拘束は行われていない。定期的な研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員や管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、個々の必要性を話し合い、必要時は活用できるよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を設け説明している。疑問があれば常時対応ができるよう伝え、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見や要望等外部へ表せる機会を設けながら、運営に反映させている。	家族等が利用料を支払いに来訪した際に管理者が話を聞き、申し送りノートや共有ノートに記載し共有している。家族等からの感謝の言葉が支援に反映され職員の励みになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を行い、職員の意見提案を聞く機会を設け反映させている。	月1回の勉強会と会議を並行させ、1月の会議時には施設長が司会を担当し意見の交換をしている。おむつの当て方や誘導の仕方を話し合い申し送りで記載し取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握して、やりがいをもって働けるよ条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、内外の研修を受ける機会の確保を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時より、本人ご家族と話し合い、要望や不安を伺っている。話を伺いながら安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の段階で、ご家族の不安や要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、利用者様、ご家族の意向や希望を伺い、初回プランに取り入れながら、職員間で共有し他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、時には「話し相手」時には一緒に行動したり、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の関係を大切にしながら共に、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域やご家族の協力の元、馴染みの関係が継続するよう支援に努めている。	利用者の人柄を知るような情報を得た場合はノートに利用者ごとに記録している。手紙や電話での支援を実施している。利用者の希望の場所や馴染みの場所へドライブに出かけるなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常時、一人ひとりが孤立しないよう、利用者様同士が支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、OBとして協力をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様の意向や希望を把握に努めながら、本人本位に検討している。出来るだけ、本人と向き合って話し合うことを心掛けている。	利用者の表情や仕草、態度から職員は利用者の内面の感情や情緒、言動の把握に努めている。無理強いをしない支援をしている。ホームルームと称して、職員と利用者で月に1度全員で話し合い利用者の思いを運営に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、生活歴は常にケアにおける参考となっています。職員が共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の身体能力や季節、寒暖等毎朝個人の申し送りに沿って現状を把握支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、急変等がない限り、大きな変化なく継続することが多いです。中で、少しずつの変化や体調については数名見直しや今後について細かに話し合い共有している。	利用者や家族等の意向を基に作成し、定期的なモニタリングを行い、見直しを行っている。利用者や家族等の要望や状態に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても理解できることを大切に記録を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本ご家族の希望があれば、自由です。買い物、食事、受診等時間がはっきりしていれば柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数少ない地域とのかかわりですが、利用者の皆様は快く迎え交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3ヶ月毎の定期健康診断、緊急時は往診も可能、利用者様の状況は気になる時点で報告、常に適切に対応できるよう支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明している。協力医療機関へは3ヶ月ごとに定期検診に行っている。利用者の3ヶ月の状態を「現状報告書」に記入し受診前にFAXしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気付きや情報は、何事も即相談できるよう連携を密にとり支援している。看護師も職員に対して詳しく、わかりやすく対応説明してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院の際は、病院関係者との情報交換や相談をしながら、利用できる場合に備えて良い関係を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に必要書類として説明している。必要に応じてご家族と話し合い、事業所から来る事、ご家族にお願いすること等チーム支援に取り組んでいる。	看取りを行う事業所であり、契約時に説明して同意書を得ている。「看取り介護実施要項」と「医療連携に関するご家族への確認と同意について」を作成している。職員は毎年研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、応急手当、初期対応の勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害対策の方法について、実施体験をしながら、職員が避難方法等身につけるとともに地域の協力体制を築いている。	夜間や地震を想定した訓練を含め、年2回の訓練を行っている。災害に備えた備蓄品を管理している。訓練には近隣住民の参加が得られ、協力体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーを損ねない対応をしている。	入浴やトイレ誘導時には声掛けに配慮している。個人情報や肖像権に関する同意書を得ている。守秘義務やプライバシーに関する勉強会を定期的に行っている。	肖像権に関して選択肢を設ける事を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、利用者様が本人の思いや自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪をとくしたり、外出の際に季節に合った服装の協力をしたり身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「いただきます」「ご馳走様」の声掛けは全員ができるよう当番を決めている。簡単な準備や片付けはお手伝いを一緒にしている。	家庭のようにスーパーの広告を見ながら献立を決めている。品数も多く、器や盛り付けにも配慮している。季節ごとの行事食も提供されている。職員も利用者と一緒に同じメニューを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期健康診断時に、全員の状態が分かり栄養状態、水分量は記録、食べる量や栄養バランスは気を付けて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き励行している。夜間は義歯のある方は「消毒」口腔ケアの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、利用者様の排泄パターンを把握、習慣を生かして自立に向けた支援をしている。	個人の排泄パターンを把握し誘導、トイレでの排泄に努め機能低下を防止している。トイレには小布の他にウォーマーで温めてあるタオルが設置され、清潔保持とかぶれ防止に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常時、野菜中心を心掛けている。出来るだけ薬を使用せず排泄できるよう予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と希望についての話し合いはしている。時にはレクリエーションがわりに気分を変え時間をかける支援をしている。	季節や天候、利用者の意向で入浴時間を変えるなどの配慮がされている。ホームルームでは入浴についても意見を聞き、反映している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合った寝具、清潔の保持、年間を通じて布団乾燥機を使用気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者様個人の処方薬を理解している。変更時は日常の様子観察するとともに、主治医に経過報告する等症状の変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	銀友独自のサービス「さくら銀行券」が定着している。自分で出来る事をしながら、わずかな楽しみですが、皆さんそれぞれに良い表情が見られます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩または洗濯物を干す事等が多いです。家族の協力を得ながら、指定以外の病院受診や自宅訪問や買い物など自由に出かけられるよう支援しています。	コロナ禍前には花見や外食、買い物などを行っていたが、現在は中止している。現在は天気の良い日に中庭でお茶を飲みながら日光浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金は持っていませんが、家族と一緒に自分の欲しいものを買ったりすることを出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に協力している。年賀状は全員が家族にお知らせできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくり工夫をしている。	事業所全体が整理整頓され、掃除が行き届いていて、居心地よく過ごせる空間となっている。天井にはシーリングファンが設置され、温度は22度から23度に保ち湿度も管理されている。玄関横には2人掛けのソファが配置され利用者同士の憩いの場になっている。至る所に民芸調家具が配置され、伝統技術を取り入れた天井や窓もあり、自宅と同じような感じで生活できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で気の合った利用者同士でお話ができるよう居場所の工夫は常に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に親しみのある家具や好みの物を置いていただけるような声掛けをしている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。管理者は入居時に家族等にも利用者があると安心して過ごせる物を持ち込むように説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりに工夫している。目的地に行くことができない利用者様には職員が誘導支援している。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 有限会社 銀友

作成日 令和 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	-3	運営推進会議の議事録に配布先の記載を期待する。	次回より施行いたします。	調査委員より指導のもと、運営推進会議議事録、出席者名の欄に「運営推進委員」を記載いたします。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。